

LLL350 心理言語学

4年 1,2クォーター

担当教員 Ivan Lombardi

授業形態 講義

単位数 2

曜日・時限 未定

授業概要

この授業の第1部では心理言語学の基本理念を扱い、心理言語学研究における最新の成果の一部を紹介する。理論やデータを扱う中で、言語の能力や言語使用の根底にある認知の過程について考える。第2部では心理言語学における2つの主要な研究領域、すなわち、バイリンガリズム／多言語主義とモチベーションに焦点を当てる。学生はバイリンガルの心理（状態）とその発達についての現在の理論だけでなく、モチベーションの作用とその動的な性質についても学習する。また、信頼性の高いデータで裏付けされていない言語に関連する一般的通念を批判的に評価する。

到達目標

1. 心理言語学における重要な概念及び成果に関して基本的な理解を得る。
2. 心理言語学領域の現在や今後の研究についての文献の講読に取り組む。
3. バイリンガリズムとモチベーションに関連した様々な神話について議論し、その実体を解明する。
4. 授業内で得た知識を用いて、自身の言語学習の習慣を見直す。

先修科目

LLL 210 言語学入門

教科書・参考資料等

研究資料を各期の初めに授業内で配布する。毎週、授業に必要な追加の資料を用意する。

授業の方法

毎週担当教員が新しいトピックを紹介し、課題の読み物の内容と言語学習者及び言語の専門家としての自らの経験に関連付けるように指導する。学生には課題の講読資料の内容について積極的に議論し、週ごとのトピックに関わる実践的アクティビティに参加するための準備をしていくことが求められる。

成績評価

出席と授業への貢献が強く求められ、評価の際に考慮される。第2週目から授業の冒頭に、課題テキストに関する10分間のリフレクション・パラグラフ（ウィークリー・チャレンジ）を書くことが求められ、質問に答えるか、講読課題の内容に関連した個人的な経験を記述するかを選択できる。また、各期の終わりに口述試験を実施する。

成績

40%	クォーターごとの試験
30%	ウィークリー・チャレンジ
30%	出席とクラスへの貢献度

授業スケジュール

第1週：導入、講義方法

オリエンテーション、講義方式について。科学的研究分野としての心理言語学に関する略史。

第2週：現代の心理言語学

現在の心理言語学研究の性質と目的、神経言語学とその研究方法とのつながりについて。

第3週：言語能力

普遍文法と（自然）言語の文法と語彙の形成に付随する他の主要な構成要素についての説明。

第4週：言語の生物学的基礎

人体の構造や性質がどのように言語の学習や使用を可能にするのか、そしてどのように言語体系が獲得され、脳内に表示され、「蓄積」されるのか。

第5週：言語の生成

発話を計画・生成する際の人間の心の働きと音声信号の性質についての説明。

第6週：言語の理解

音声の知覚と語彙のアクセスの仕組み、及び心が（構造的）曖昧さをどのように処理するのかについて。

第7週：心理言語学における研究と実験

実験心理言語学と最新の成果についての概観。

第8週：第1クォーターの試験

第1クォーターの内容に関する口頭試験。

第9週：バイリンガリズムの心理言語学

2つ以上の言語が同時または順次に習得／学習される仕組みに関しての心理言語学的研究について。

第10週：同時的 対 逐次的言語獲得

同時言語習得と逐次的言語習得の性質及びそれらが言語学習と言語使用に影響を与えるのにどのように相互に作用するのか。

第11週：認知とバイリンガル脳

認知および記憶に対し、心理言語学の研究がバイリンガリズム／多言語主義の主な影響として認定していることについての研究。

第12週：モチベーションの心理言語学

心理言語学の視点から捉えたモチベーションの科学的研究についての導入及び言語獲得や言語学習における意義に関するディスカッション。

第13週：モチベーション研究の主要なもの

1960年代から現在のソシオ・ダイナミクスの展望そしてそれ以降に至る第2言語の動機づけの研究に関する歴史の概要。

第14週：言語学習の動機付けにおけるソシオ・ダイナミクスの展望

モチベーション理論の現在の動向：自己の概念を中心に、Dörnyeiのコンプレックス・ダイナミック・システムの視点から議論する。

第15週：モチベーションの低下と上昇

モチベーションの動的な性質と、意欲喪失（demotivation）またはモチベーションの不在（amotivation）との相互作用に関するディスカッション。教育機関における言語教育と言語学習環境において、動機付けの方略がやる気にどう作用しうるか。

第16週：第2クォーターの試験

第2クォーターの内容に関する口頭試験。

事前・事後学習

-
- ・ 予習：参考図書の該当する章を予習してくること（1時間程度）。
 - ・ 復習：授業内容を復習し、疑問点を整理すること（1時間程度）。